

## 脳梗塞といっても実は... 4

皆さんもよくご存じとは思いますが、日本人の死因の第一位は悪性腫瘍（癌）です。ちなみに脳卒中はかつて第一位でしたが現在は第三位です。ところで癌があると脳卒中を起こしやすくなることが知られています。癌で亡くなられた方の14.6%に脳血管障害を認め、脳出血と脳梗塞の頻度はほぼ同じであったと報告されています。癌があると血液が固まりやすくなり、心臓の弁に疣贅（固まり）ができたり（非細菌性血栓性心内膜炎＝NBTE といいます）、下肢の静脈に血栓ができる（エコノミークラス症候群でも有名です）ことで脳梗塞を起こしやすくなると考えられています（下肢の静脈にできた血栓がなぜ脳梗塞を起こすかについては次回説明したいと思います）。その他、血液が固まりやすいため血管のいたるところで小さな固まりができる（微小血栓）、癌自体が小さな固まりとして脳の血管に詰まる（腫瘍塞栓）といったメカニズムでも脳梗塞が生じます。大小様々な脳梗塞が、同時にMRIで描出されることが多く、しかも上述の様々なメカニズムで脳梗塞が生じるため、今まで述べてきた脳梗塞の分類（ラクナ梗塞、アテローム血栓性脳梗塞、心原性脳塞栓症）に当てはめるのは難しく、実際の医療現場では**トルーソー症候群**と呼ばれます（一番多いのはNBTEのためNBTEによる脳梗塞と呼ばれることもあります）。逆に、新しい脳梗塞が多発し、血液検査でD-dimerという項目が高い場合（高いと体に血栓がある可能性が高くなります）、癌の存在を疑って全身の検査をすると実際に癌が発見される場合があります（図1-3）。原因となる癌は固形癌、特に肺癌、乳癌、子宮癌、消化器癌、腎臓癌、前立腺癌などが多いとされます。治療については、急性期にヘパリンなど血液をさらさらにする抗凝固療法が有効であることが明らかにされています。しかしながら、癌を治療しないことには血液の固まりやすい状況は根本的には改善しないため、癌の治療がもっとも大事になります。

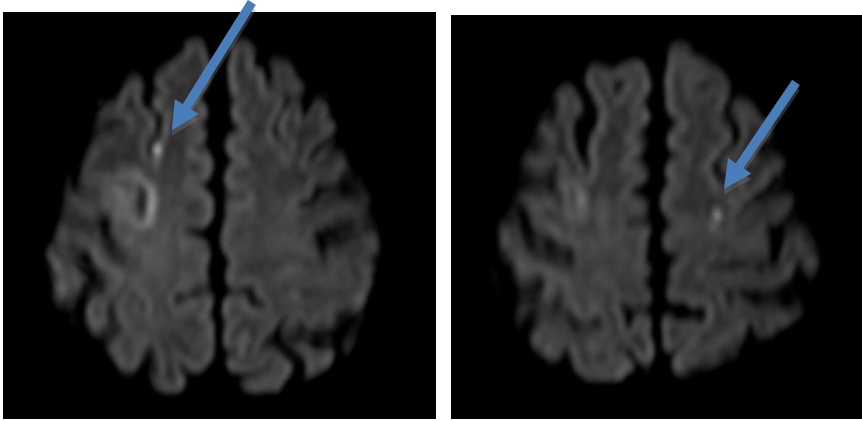


図1 MRI拡散強調画像で多発する脳梗塞を認める(矢印).

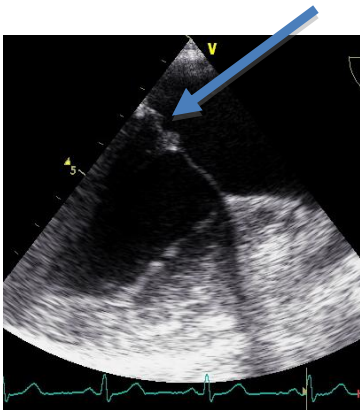


図2 経食道心エコーで僧帽弁に疣贅を認める(矢印).

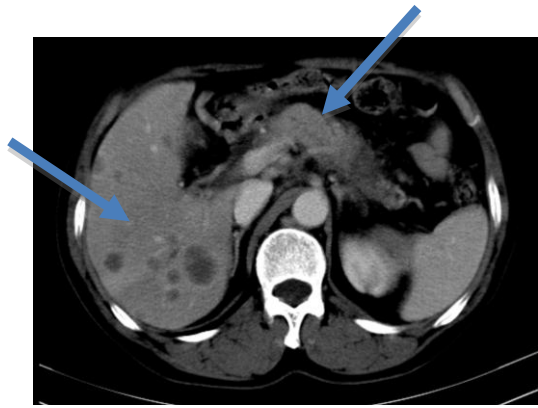


図3 膵臓癌と肝臓への転移を認める（矢印）.